

学校概要

創立 36 周年	学校長 鈴木 正憲	副校長 武藤 晋	学期 2 学期制	児童・生徒数 118 人
学級数 一般級: 6 個別支援級: 2			主な関係校: いずみ野中学校	

学校教育目標

わくわくあくわ小学校 ～みんなかがやけ、あくわっ子～

- あいさつから 輪を広げる子 (徳)(公)(開)
- 工夫して 学び続ける子 (知)
- わたしもあなたも 命を大切に子 (体)

学校の特色

- 仲間意識が強く、国際色も豊かな県営団地を学区とする小学校である。
- 明るく素直で人懐こい児童が多い。清掃や委員会活動など真面目に活動する。
- 小規模校なので職員が全校児童と関わりを深めることができる。
- 個に応じた指導の形態を工夫し、分かりやすい授業を展開しようと努める熱心な職員が多い。
- 文化や言語、習慣の違い、家庭環境等から基本的な生活習慣が身に付いていない子どももいる。
- 学校外で学習する習慣や家庭で予習・復習をする時間が少ないため、学習の定着がなかなか図れない。

学校経営中期取組目標

- ・子どもたちが「わくわくする学校」、「チャレンジする学校」を創る。
- ・学校評価を活かし、全教職員が相互に啓発や連携をする活気にあふれた学校経営組織を確立していく。
- ・確かな学力、生活に生きてはたらく力が身に付けられるように、教職員の専門性や長所、創意工夫を活かした、組織的な教育活動を推進する。
- ・心身共に健康でたくましい子どもを育成するために、学校と家庭、地域、関係機関等との連携を図る。
- ・風通しの良い、信頼に応える学校づくりを推進する。

小中一貫教育の取組

いずみ野中学校 ブロック : いずみ野中学校、新橋小学校、いずみ野小学校

9年間で育てる子ども像

○基礎・基本を確実に身に付け、豊かなコミュニケーションをとることができる子を育てる。

自校の具体的取組

- ・生活に生きてはたらく基礎的・基本的な内容の定着を図り、挨拶をはじめとして、規範意識を高め、基本的な生活習慣の形成と充実を図る。
- ・6年間学びが継続し、中学校に繋がられるように「あくわ型学びのスタンダード」を実践する。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p>確かな学力</p> <p>担当 研究部</p>	<p>基礎的・基本的な内容の定着を目指し、継続して粘り強く学ぼうとする意欲を高める。国際教室の充実を図り、指導体制や環境を整える。</p>	<p>・わくわくチャレンジタイム(習熟度別学習)・あくわ式漢字検定など個の能力に応じた学習を取り入れ、児童が見通しをもって主体的に取り組み、基礎的な学力の向上を目指す。</p> <p>・家庭や関係機関と連携しながら学校外学習の拡充を図る。学校司書やICTを活用し、情報活用の実践力を育てる学習を実践していく。</p>
<p>豊かな心</p> <p>担当 人権・図書館</p>	<p>良さを認め、共に支え合い、高め合う人間関係を築き、自己有用感や自己肯定感がもてるようにし、自分に自信をもって行動できるようにする。</p>	<p>・図書館司書教諭による授業支援、学校司書やボランティア、市立図書館と連携を図り、豊かな心を育てる読書活動を推進する。</p> <p>・道徳の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。</p> <p>・YPアセスメントを年2回実施し、児童の実態や変容を把握する。社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行い、人間関係づくりをする。</p> <p>・全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。</p>
<p>健やかな体</p> <p>担当 体育部・保健部</p>	<p>日常の教育活動、学校行事を通して、心身の健康・安全について理解、実践し、自己管理できる力を高め、健康でたくましい子を育成する。</p>	<p>・安心・安全でおいしい給食を提供し、食育を推進する。</p> <p>・体育の授業を充実させるとともに集会活動や休み時間や放課後遊びを通して健やかな体づくりに取り組む。</p> <p>・食育・保健教育を充実させ、委員会活動や学校保健委員会を通して、健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。</p>
<p>教育課程学習指導</p> <p>担当 教育課程・教育評価</p>	<p>基礎的・基本的な内容の理解、定着を図るために、子どものつまずきや実態を分析し、授業の工夫、改善を行う。</p>	<p>・教育活動全体を通して言語活動の充実を図り、喜んで楽しみながら書ける子を育てること「書く力」を付けていく。教科・領域に捉われず「書く力」に焦点を当てた研究授業を実施し、授業力の向上を目指す。</p> <p>・4～6年生の算数科において、習熟度別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋がられるように学習指導の強化を図る。</p>
<p>いじめへの対応</p> <p>担当 児童指導委員会</p>	<p>いじめをぜったいにゆるさない学校、多文化共生の理念に基づいた人権教育を推進し、「誰もが」「安心して」「豊かな」学校生活を過ごせるようにする。</p>	<p>・「あくわスタンダード」を基準に、家庭、地域、関係機関等との連携をさらに深め、教職員が一丸となって「いじめをゆるさない」風土をつくり、子ども一人ひとりに寄り添った指導・支援を行う。</p> <p>・規範意識を高め、共有した指導体制を確立する。</p> <p>・全職員で児童指導委員会を運営し、さらに児童理解が深められるように時間を確保し、全職員で情報を共有し、いじめへの対応にあたる。</p>
<p>特別支援教育</p> <p>担当 特別支援</p>	<p>課題に応じた個別の支援計画や指導計画を作成し、指導を行う。療育センターや特総センターと連携し、児童の見取りや指導方法の改善を図る。</p>	<p>・配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。</p> <p>・関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。</p> <p>・5・6年生の家庭科、1～6年の音楽科、3～6年の図画工作科は専科による教科指導を行い、複数の教師が子どもに関わり、情報を交換する中で支援していく。</p>
<p>教職員の研究研修</p> <p>担当 教職員研修</p>	<p>日々の授業や研修を行うことによって、教師力としての人権感覚を醸成し、専門職としての力量を身に付ける。</p>	<p>・メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を月1回程度の割合で行う。</p> <p>・低・高学年にブロックを分け、担任外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。</p> <p>・重点研究として「書く力」を高める授業を実践していく。教科・領域を越えた外部講師を招聘し、授業力の向上を図る。</p>
<p>人材育成・組織運営</p> <p>担当 総務・企画会</p>	<p>教職員一人ひとりが、自覚と責任をもって主体的に学校経営に参画できるように組織や校務分掌を見直し、改善する。</p>	<p>・経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者になることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。</p> <p>・教務主任、主幹教諭を校務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。</p>